



向山富雄さん

毎日、朝は自宅で、昼には弁護士事務所で見出し目を通して見ます。見出しの大小にかかわらず、世界のニュースから地域密着の記事まで関心のある記事を読み込みます。時間がないときはあとでゆっくりと読み返すようにしています。

職業柄、事件や事故、裁判の記事が気になります。二重電話詐欺など、消費者が被害に遭う犯罪は手法が常に変化しているので、新

他メディアに勝る「確認性」

聞で追い掛けています。

最近では、被成年後見人の資格制限や介護施設での高齢者への暴力など、少子高齢化の時代だからこそその法律にかかわるような話題にも注目しています。

相談に来る人は一般の市民や中小企業の社長が多いです。弁護士という職業が近寄りがたいものと思われたいけないので、地方版の記事も読みます。相談者は基本的に緊張していません。読んだ記事をきっかけに世間話をしながら、本題に入ることもあります。

ネットニュースの普及で、新聞は速報性では勝てません。ただ、そのニュースが真実なのかを判断できる「確認性」が新聞にはあると思います。

(二重弁護士会広報委員長)